

家具の固定をしよう！



マグニチュード8クラスの地震が今後30年以内に70%の確率で発生すると想定されています。

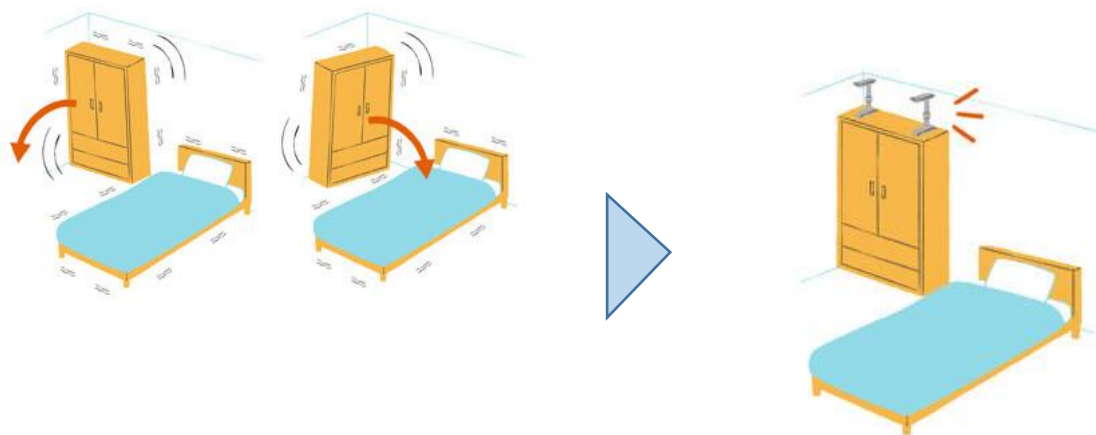
阪神・淡路大震災においては、死者の80%以上が家屋の倒壊や家具等の転倒による圧迫死でした。

令和4年度12月付内閣府政府広報室「防災に関する世論調査」の概要によると「家具・家電などを固定し、転倒・落下・移動を防止している」と回答した方の割合が、35.9%にとどまっています。

過去の教訓を受け止め、大地震から命を守るために家具の固定化を積極的に取り組みましょう。

(1) 被害軽減の重要ポイント

- ① 廊下・出入り口・階段などの通路の妨げになる位置に家具を置かない
- ② 幼児・高齢者の部屋・寝室の家具は最小限にする
- ③ 火気の周辺に家具を置かない
- ④ 重たいものは下の方に収納する
- ⑤ ガラスにはフィルムシートを貼るなど飛散防止に備える



(2) 家具の固定方法



最も確実な固定方法は家具の枠組みにねじ止めをする『L字金具による固定』です。

これが難しい場合は、家具と天井との間にポール式固定器具を突っ張って固定する方法とマット式等のすきま材をはさむ方法を併用することで一定の効果を得ることができます。






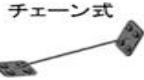





また壁や大切な家具にキズをつけることなく固定することができるものもあります。

まずは、生活空間にある家具をできるだけ減らし、レイアウトを見直してから家具の固定化を進めるようにしましょう。

(3) 固定器具の種類と効果

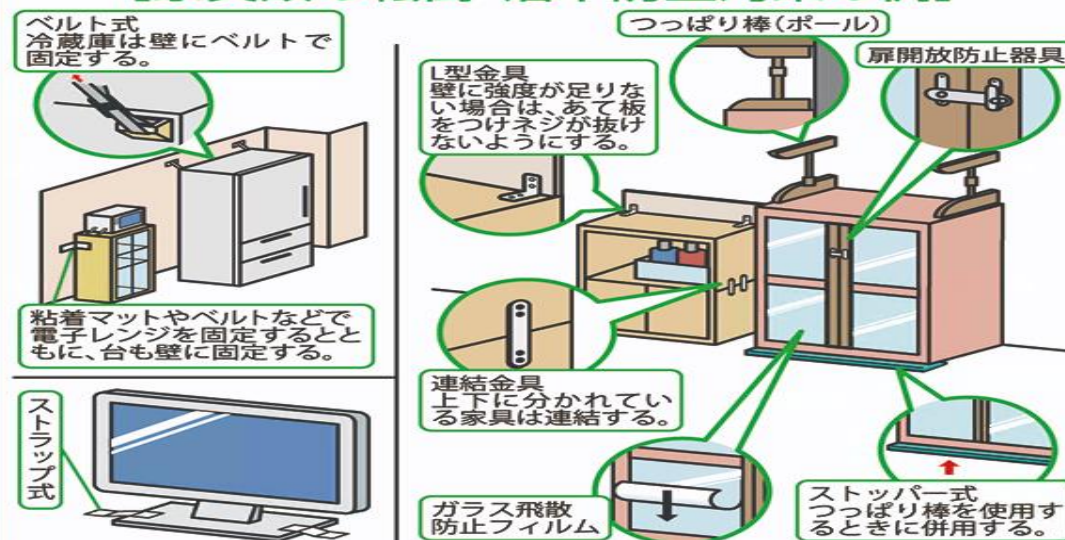
下記の表を参考に家具や家電の配置を見直し、固定器具を使って地震に備えましょう。

※地震動に対する対策器具の効果

使用条件	器具の効果				
	小				大
単独使用	ストッパー式  マット式 	ボール式 	L字金具 (スライド式)  ベルト式  チェーン式 	L字金具 (上向き取付け)  プレート式 	L字金具 (下向き取付け) 
組合せ使用	家具と天井に十分な強度が必要		家具、壁面や器具に十分な強度が必要		
		ボール式 + マット式 	ボール式 + ストッパー式 		

(出典：東京消防庁「家具類の転倒・落下・移動防止対策ハンドブック」)

【家具類の転倒・落下防止対策の例】



ベルト式冷蔵庫は壁にベルトで固定する。

粘着マットやベルトなどで電子レンジを固定するとともに、台も壁に固定する。

ストラップ式

L型金具壁に強度が足りない場合は、あて板をつけネジが抜けないようにする。

つっぱり棒(ボール)

扉開放防止器具

連結金具上下に分かれている家具は連結する。

ガラス飛散防止フィルム

ストッパー式つっぱり棒を使用するときに併用する。

※家具転倒防止器具は、ホームセンターや量販店などで販売しています。
 ※壁にキズをつけずに、取り付けられる器具もあります。

(出典：東京消防庁ホームページ「家具類の転倒・落下・移動防止対策」)

問い合わせ先 赤穂市役所 建設部 都市計画課 建築係

電話：0791-43-6827 FAX：0791-43-6974 mail: kenchiku@city.ako.lg.jp